

わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～私のすきな絵本～」(4月)

令和2年4月からもったいない図書館ホームページより絵本のご紹介を始めました。読み聞かせから始まる子どもの読書活動は、知的、情緒的、精神発達のにも大きな役割を果たし、子どもたちが心身ともに健やかに成長していくために重要なものです。

幼い子への親による読み聞かせは、感情のこもった肉声、親が笑ったり、涙を流したりといった感情の自然な共有、抱っこや添い寝といったスキンシップによる安心感・信頼感など、親子のコミュニケーションの希薄化という現代の子育ての危機を修復する力を持っています。

生涯にわたって望ましい読書習慣を身に付けることができるよう、言葉を通し感性や表現力を高め、心豊かな読書の街づくりを目指します。

『あさになったので まどをあけますよ』

作・絵：荒井良二

出版社：偕成社

ご紹介 矢祭町長 佐川正一郎

矢祭町「子ども読書の街」づくり推進委員会委員長



絵本には力があります。

“あさになったので まどをあけますよ”
読むと、自分の置く位置によって世界が変わっていくという、未来志向の考えが生まれる。自分の成長と共に世の中の変化を読むことだと思います。

内容のご紹介

なにげない日々の繰り返しのうちに幸せがあり、新しい一日をむかえるために窓をあける子どもたち。なにげない日々の繰り返し、その中にこそある生きることの喜びを描いた絵本をぜひ、家族で読んでください。

令和2年4月号の広報やまつりに掲載できませんでしたので、再度ご紹介いたしました。

(矢祭もったいない図書館)